

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-249627

(P2012-249627A)

(43) 公開日 平成24年12月20日(2012.12.20)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A O 1 C 1/04 (2006.01) A O 1 C 1/04 A 2 B O 5 1

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2011-139914 (P2011-139914)
 (22) 出願日 平成23年5月31日 (2011.5.31)

(71) 出願人 511154548
 牧 芳清
 神奈川県横浜市南区二葉町2丁目19番1
 〇2号
 (72) 発明者 牧 芳清
 神奈川県横浜市南区二葉町2丁目19番1
 〇2号
 Fターム(参考) 2B051 AB01 CB02 CB22 CB23 CB34

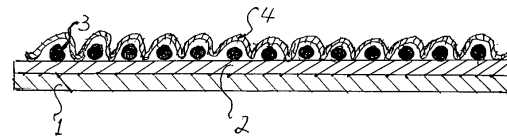
(54) 【発明の名称】 種蒔きシート

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 種子を希望する間隔に正確に植える事が出来る種蒔シートを提供する。

【解決手段】 ペ - パ - 1 の糊面 2 に種子 3 を配置してその上にシ - ト 4 を貼り付けて形成した種蒔きシ - トとする。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ペーパ - に糊、または接着剤を塗りそこに種子を配置してその上にシ - トを貼り付けて形成した種蒔きシ - ト。

【請求項 2】

ペーパ - の表面に種子を配置して、その上からペ - パ - に糊または接着剤を塗り貼り付けて形成した種蒔きシ - ト。

【請求項 3】

文字、図形等を表示したシ - トに糊、または接着剤で糊付けしその部位に種子を貼り付けた種蒔きシ - ト。

10

【請求項 4】

分割線を入れた請求項 1 , 2 又は 3 記載の種蒔きシ - ト。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は種蒔き時、ミリ単位で正確に種植えが出来る種蒔きシ - トに関するものである

【背景技術】

【0002】

畑等での種蒔きは多くは人の手による、ばら蒔きである。

その欠点は種の無駄使い、種子間の間隔が小さくなる事による成長不良を招き、人の足腰への負担が多く、広い畑では辛い作業と成ること。又耕作地を有効利用できない、と言う問題点があった。

20

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

(1) 本発明は種を希望または理想間隔に植えることができる様にする。

(2) 収穫量を増やす。

(3) 作業者の負担が少なく、種の必要量もすぐ分かり。同時に収穫量も正確に推定出来る様にするものである。

(4) プランタ - 用には分割して使用する事ができる。

【課題を解決する為の手段】

30

【0004】

上記課題を解決する為に、本発明が提案する種蒔きシ - トは次の (1) ~ (4) に、記載のものである。

(1) ペ - パ - に糊または接着剤を塗り、種子を配置しその上にシ - トを貼り付けて形成した種蒔きシ - ト。(以下第 1 シ - トという)

(2) ペ - パ - の表面に種子を配置してその上に糊付けた紙を貼り付けて形成した種蒔きシ - ト。(以下第 2 シ - トという)

(3) 文字、図形等のシ - トに糊付けしその部位に種子を貼り付けた種蒔きシ - ト。(以下第 3 シ - トという)

(4) 上記 (1) (2) または (3) のシ - トに分割線を入れたシ - ト。(以下第 4 シ - トという)

40

ペ - パ - とは、パルプ、古紙どちらでも良く安価なもの、厚みは 0 . 1 から 1 ミリぐらいまでで、不織布でも良くサイズは 3 センチから 6 0 c m 位で用途によりかわる。

糊は、でんぷん系もしくは紙用接着剤。

種子は、農作物、米 麦 野菜等全般、園芸用草花 木 芝生等全般をさす。

分割線はマシン目などで良い。種を植える間隔は 5 ミリ ~ 1 0 0 センチがよい。

【発明の効果】

【0005】

(1) 種を希望または理想間隔に植える事ができる。

(2) 収穫量を増やせる。

50

(3) 作業者への負担が少なく種の必要量もすぐに分かり同時に収穫量も推定できる。

(4) プランタ - 用には分割して使用できる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 6 】

【図 1】本発明に係るその実施例 1 A の断面図。

【図 2】本発明に係るその実施例 2 の断面図、シ - トの上に種を置き糊着けたシ - トを貼り付けた断面図。

【図 3】文字、図形に糊付けその上に種を貼り付けた平面図。

【図 4】ミシン目を入れた平面図。

【発明を実施するための実施例】

10

【実施例 1】

【 0 0 0 7 】

実施例 1 は、第 1 シ - トの実施例で図 1 に示す構成と成っている。図 1 において

(1) ロ - ル - ペ - パ - 、(2) はロ - ル - ペ - パ - の上に形成した糊面、(3) はその上に配置した種子、(4) はペ - パ - の上に貼り付けた シ - トである。

【効果】

キャベツを例にとると今一般的に株間は 3 0 センチ畝間は 4 0 センチ、1 ヘクタ - ルでは 1 0 0 メ - トル割る 3 0 センチ = 3 3 3 個 1 0 0 メ - トル割る 4 0 センチ = 2 5 0 畝 = 8 3 , 2 5 0 個の収穫、是を 2 センチずつ詰めると 3 5 7 個 2 6 3 畝 9 3 , 9 4 7 個と成り 1 0 , 6 9 7 個増、約 1 2 % の収穫増。

20

【実施例 2】

【 0 0 0 8 】

実施例 2 は、第 2 シ - トの実施例で図 2 に示す構成と成っている。

図 2 において (5) はロ - ルペ - パ - (6) はその上に配置した種子、(7) はその上に付けた糊紙である。

【実施例 3】

【 0 0 0 9 】

実施例 3 は、第 3 シ - トの実施例で図 3 に示す構成と成っている。

図 3 において (8) は文字, M A K I (9) を表示したシ - ト、(1 0) M A K I (9) の部位に塗布した糊の上に貼り付けた種子である。

30

【実施例 4】

【 0 0 0 1 0 】

実施例 4 は、第 4 シ - トの実施例で図 4 に示す構成と成っている。

これは上記実施例 1 , 2 に分割線として構成するミシン目 (1 1) を入れたものである。

【符号の説明】

【 0 0 0 1 1 】

1 ロ - ルペ - パ -

2 糊または、接着剤面

3 は、種子

4 は、被いよう シ - ト

5 は、ロールペ - パ -

6 は、種子

7 は、糊付けた紙

8 は、糊付けた文字 M A K I

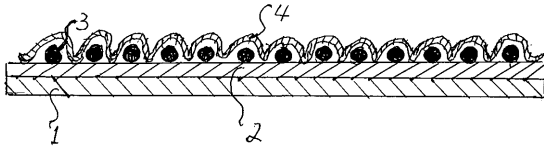
9 は、シ - ト

1 0 は、種子

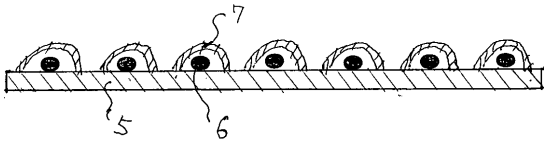
1 1 は、分割するミシン目。

40

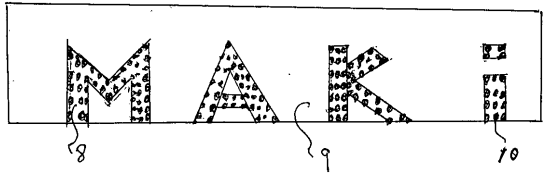
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】

